



令和8年度なは市民協働大学の“なう（今）”をお届けします！

なは市民協働大学だより

vol.03

第4回

2026.9.17

令和8年度テーマ

『話す！つながる！動き出す！災害に強いまちをつくろう～求む！未来の防災リーダー～』

1 観光と防災

講師：那覇市経済観光部観光課 與那覇 博訓 主幹

講座のポイント

1. 那覇市の観光
2. 那覇市の観光危機管理計画について
3. 「公助」の取組みについて

那覇市観光課の與那覇主幹からは、観光視点からの防災についてお話いただきました。災害時、観光客は「要配慮者」になりうる。なぜなら、観光客は土地勘がないことや外国人観光客の場合には言語の壁もあるからだと説明がありました。また、那覇市には1日約3万人の観光客が市内に滞在していることから、「帰宅困難となった観光客の早期帰宅支援」が災害時の課題となる。そして、災害が発生すると観光産業にとっても大きな損害を被る可能性があるため、その対策として那覇市で策定している「那覇市観光危機管理計画」についてもお話がありました。「那覇市観光危機管理計画」では、災害のフェーズに併せて対応の内容が示されています。その事例として、新型コロナウイルス流行時に観光事業者の支援事業として実施された「令和2年市内宿泊・飲食等消費促進クーポン（那覇とまーるクーポン）」が紹介されました。また、那覇市として、帰宅困難となった観光客の帰宅支援の一環として、那覇市が沖縄県ホテル組合と締結している協定に基づく宿泊施設の提供や、国際通り沿いに設置しているデジタルサイネージを活用した災害情報発信などについて触れられました。

最後に、安全・安心な世界水準の観光リゾート地を目指すにあたって、行政（公助）には限界があり、市民の協力が必要だと締めくくられました。

2 牧志3丁目自治会 防災・減災マップ作成の取組み

講師：矢野 弘子氏、瀬底 幸江氏、翁長 由佳氏

講座のポイント

- 地域を知ることから始める防災・減災
- みんなの声をマップに
- 牧志のまちに広がる防災・減災の輪

令和6年4月の津波警報をきっかけに、牧志地域の防災・減災に取り組むはじめた同団体。令和7年度には「なは市民活動支援事業（助成事業）」を活用し、『まちぐわーアーケード街 防災・減災マップ』を作成しました。講座では、その完成までの道のりをお話いただきました。防災マップづくりでは、防災講座で学ぶだけでなく、地域住民や地域で働く方々と日中・夜間にまち歩きを実施。危険箇所や避難場所をみんなで一緒に確認し、多くの地域の声やマップに反映。多くの人の手に取ってもらいやすいよう、温かみのある色遣いやフォントにもこだわりました。

完成した防災マップは、牧志公設市場の出入り口や各店舗に設置。防災マップは、現在も情報の更新が続いています。今後は、商店街のオーナー向けの勉強会など、防災をきっかけに地域の繋がりを広げる活動に取り組むたいとの意気込みが語られました。

3 ココに居たから助かった！防災に強い商店街ができるまで ～ななほしてんとうむし会の軌跡と、地域で育てる防災～

講師：知念 日和氏、糸数 貴子氏、館岡 舞氏、知念 千夏氏

講座のポイント

- 舞台は「沖映通り」：弱みと強みの交差点
- 歩いて作った防災マップ、“完成させない”海拔ステッカー
- 活動を人から仕組みへ

ななほしてんとうむし会は、なは市民協働大学院第7期生で結成された団体です。協働大学院受講中に気づいた沖映通りの防災についてを課題として取組んでいます。観光客が多く、津波災害警戒区域にも指定されている沖映通り。地震・津波の発生時には、迅速な垂直避難が求められます。そこで同団体は令和7年度に「なは市民活動支援事業（助成事業）」を活用し、多言語の防災観光マップと、店舗などが自ら情報を書き込める「海拔ステッカー」を作成しました。この取組みをきっかけに、地域の商店街振興組合も「防犯・防災照明（青い光）」を設置するなど、1つのアイデアが地域にもたらした変化を学べました。

また、東京大学主催の「チャレンジ！オープンガバナンス2024」でセミファイナリストに選ばれるまでの道のりも紹介してくださいました。最後に、同会から受講生へ「完璧を目指さず、小さく試してみてください！」とエールが送られました。



講師：與那覇 博訓 氏



講師：牧志3丁目自治会



講師：ななほしてんとうむし会



ワークショップの様子

平和通り(牧志3丁目)と沖映通りでの防災マップと地域での取り組みについて話を聞き、問題や対策、これからの課題についても考える事が出来ました。
また、グループワークで話をする機会もあり楽しく学ぶ事が出来ました。



受講生の感想

那覇市の観光の視点からの防災についてや、牧志3丁目の自治会の方々で作成した防災マップを実際に手に取って見ることができて大きな学びになった。市町村が配布するハザードマップより見やすく初めて知ることでも沢山あって大きな学びになった。

住民、店舗スタッフや観光客、外国の方が避難できるように試行錯誤して作られた防災マップは大変素晴らしい、那覇市の様々な地区でこのような防災マップができたらいいなと思うと同時に、自宅付近のマップを自分も作ってみたいと思いました。

「なは市民協働大学だより」では、各講座の様子をお届けします！
「なは市民協働大学」ってどんなことするの？何が学べるの？と気になる方は、ぜひご一読ください。

那覇市市民文化局まちづくり協働推進課
担当：里井、竹尾、高橋

☎ C-KATU005@city.naha.lg.jp ☎ 098-861-5024